Ｎｏ．２	議席番号	氏　　名	質問事項・要旨及び答弁者
	４	竹田　努	

１．第７次振興計画目標達成とまちづくり等について　　町長

第７次木古内町振興計画も８ヶ月が経過をし、１０年間の目標に向けて、検証委員会と連携のもと官民協働のまちづくりを進めていると認識しております。

町長就任以来、数多くの人口減少施策「子育て、移住定住等」を含めいろいろ打ち出してきました。また、先日基金の運用状況の説明を受け、財政調整基金も目減りしていないことを確認し、今なら、さまざまな事業に投資できるのではと思っています。

第７次振興計画の目標達成、また、ふるさと納税目標額の１０億円達成には、多くの皆さんの協力、支援が必要だと考えます。

標題のまちづくり等を進めるうえで、下記項目について、町長の見解を伺います。

（１）東京木古内会に４年振りに参加をして、参加者の少なさに寂しさを感じてきました。このままでは、組織がなくなるのではと、とても心配です。

会員の年齢層からも、何も対策を講じなければ会員数の減少は必至であり、大胆な施策が必要と考えます。東京木古内会だけでなく、札幌木古内会も同様だと思われます。

東京、札幌木古内会は、我が町の応援団でもあることから、若い年代層の方が、参加しやすい環境支援が急務と考えますがいかがでしょうか。

（２）姉妹都市「山形県鶴岡市」とは、行政、学校間、訪ねる会、物産会等、今日までいろいろな交流を実践してきました。

盟約３６年目を迎えましたが、現状では「つるおか大産業まつり」と、当町の「大産業魅力フェア」とのつながりが極めて大きく、違う形での姉妹都市交流を行えないものでしょうか。

例えば、アンテナショップを常設して、姉妹都市の季節に合った特産品や食も含めて、気軽に購入できる仕組みをつくってはいかがと思いますが、町長の考えを伺います。

（３）我が町では、多くの団体や企業と連携協定を締結しており、現在６５件と連携協定を締結していると認識をしています。そのうち防災に関する協定が２６件あり、他は、教育、見守り、福祉等々の分野における協定であるようです。

しかしながら、我々住民には、町と企業で交わす連携協定の効果、あるいは成果が見えていないのが実態です。

７．３０の津波避難警報が発令された際には、協定を結んでいる企業からどのようなアクションがあったのか。また今年のクマ騒動で、クマ檻の監視システム等における大学とのやり取りはなかったのかをお聞きします。